

### 日本の幼稚園行事について③ さよならぼくたちの幼稚園、卒園アルバムと卒園式

日本では4月に年度が始まり3月に終わりを迎えるので、毎年3月4月は幼稚園や学校では進級や卒園、入学卒業シーズンとなる。多くの子どもにとって、幼稚園や保育園は初めての集団生活となるので、卒園式や卒園アルバムも初めての経験となる。園によっても違うのだが、園児の人数が多い園や卒園式の様子などもアルバムに載せる場合は、卒園アルバムをもらうのが卒園後になることも多い。

幼稚園や保育園で卒園アルバムがあるということに筆者は当初かなり驚いたものである。受け取った卒園アルバムを子どもといっしょに見てみると、まだ親から離れて座ることができず、泣き顔で写っていた入園式の写真から載っていたのである。幼稚園で過ごした3年間の行事はもちろん、日々の園生活や先生たちの写真やメッセージなど、今見ても10年後に見ても大人になってから見てもきっと楽しい思い出が一瞬で蘇ってくるような内容である。



卒園アルバムの一例(株式会社うるる社 HP より)

卒業アルバムは園児が園から受け取る卒園記念品であるが、これとは別に、園児と保護者たちがお世話になった先生へ贈るメッセージ集も卒園の定番である。このメッセージ集や手作りアルバムなどは保護者たちによる手作りのものが多く、その完成度やクオリティーの高さには度肝を抜かれることもある。

先生へのメッセージ集は、園によっても様々だが、働いている保護者が多い保育園よりは、幼稚園のほうで良く作られることが多い。各クラスをまとめている保護者が他の保護者に呼び掛けて先生といっしょに写った写真の提供を呼び掛けたり、子どもといっしょにこのカードに

メッセージを書いてくださいと指示を出し、そして、後日回収して、貼り合わせたり、タイトルや絵を書き足したりとする。

ここでも思うのは、ママたちが慣れた手つきでこのようなメッセージ集の作成や編集ができるのは、やはり日本の学校教育で小さい頃から身近な環境でお絵描きや図工、美術などの授業があったからできることなのではないだろうかということである。そして、年賀状や手紙などを書く習慣がまだ少なからず残っているからこそ、このような手描きメッセージや制作物もごく自然にできるのであろう。そして、プロが作ったものと違って、保護者や園児たちによる手作りならではのぬくもりが感じられるはずであり、もらった先生にとっても、きっと良い思い出になるでしょう。

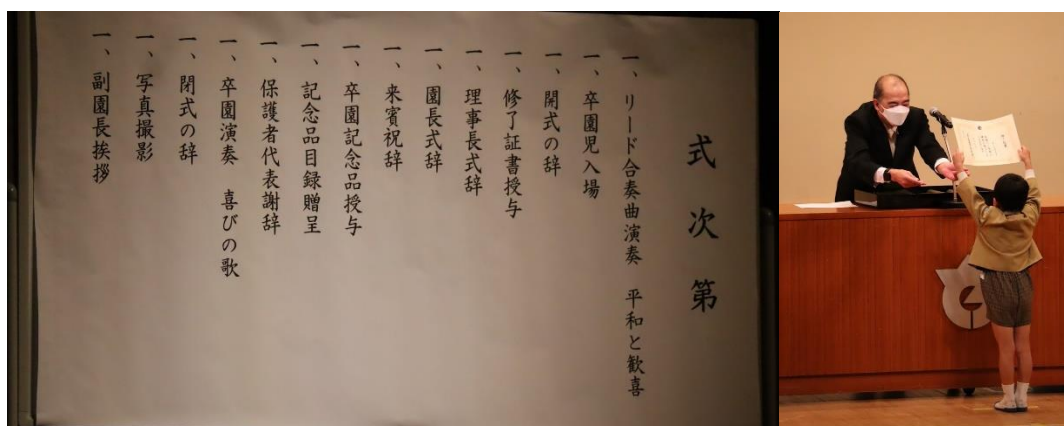


「トイ・ストーリー」を模した手作りの写真メッセージ集とそれを先生が見る様子

卒園シーズンはこういった記念品の贈呈のみでなく、きちんとした卒園式という行事もある。入園式もあったことはあったが、それはほんの 20 分足らずの式と言えるかどうかのものだった。何しろ、保育園の入園は 0 歳や 1 歳の子もいるし、幼稚園の入園式は 3 歳の子どもが主役だが、親に抱っこされたり、泣きじゃくったりする子どもたちが参加するので、式典いうよりは式典ごっこのようなものだった。

しかしながら、集団生活で身につけたマナーや子どもたち自身の成長によって、卒園式を迎える 5 歳の子どもたちはあの入園式とは全く違い、立派に卒園式に参加していた。

卒園式の場合、幼稚園は園の制服、保育園の場合も正装を来て式典に参加するのである。入園式のときは親から離れられず、一人で座ることもできなかったような子が、卒園を迎えるころには立派に式典に参加でき、園長先生からのお祝いの言葉についても凜とした姿勢で静かに聞くことができ、大きな返事をして卒園証書を受け取る姿には大きくなったなと思うと同時に寂しい気持ちにもなる。この式典での様子を収めた写真をも先の卒園アルバムに載せるために、園児への配布は一般的に卒園後になるのである。



卒園式の式次第と園児が凜とした姿勢で卒園証書を受け取る姿

卒園式というきちんとした式典に参加することで、より一層、卒園ということが実感としてわかる。卒園は一つの区切りであり、幼稚園保育園生活の終わりであるが、それと同時に次なるステージへのスタートでもある。卒園を迎える園児たちはまだこの世に生まれてからたった5年しかたっていない5歳児であるが、しかしながら、彼らなりにもこの5年で学んだことがあり培ってきた知識や経験がしっかりと彼らの中に蓄えられている。立派な5歳児なのです。人生まだまだこれから、未来へ向かって一歩ずつ進む小さな大人たちの新たなるステージの幕開けに、幸あれ！

日文/照片 原田捷子

编辑修改：JST 客观日本编辑部